
夜兎！無理して元気出すな！

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜兔！無理して元気出さな！

【Nコード】

N6421M

【作者名】

ごほんライス

【あらすじ】

うーむ。オレは無理して元気出さないといかん。ほっといたらずつと鬱状態だ。。。10枚です。

(前書き)

夜兔のためだけに書きました。ほかの読者にとってだるかったらごめんなさい。

夜兎のメールがよりどころとなった。

という経緯があるので、今、いったい夜兎に何と書いていいかわからない。

オレはメッセージじゃだめだと判断した。

「ぱびぷへ河野。ぱびぷへ河野。えい！」

呪文を唱えると、オレはPC画面に飛び込んだ。

「わっ」

オレは夜兎のケータイ画面から飛び出した。

そこは夜兎の部屋である。

「え。ひよつとしてライス先生」

「や、夜兎かい」

おお。実際の夜兎はこんな感じか。意外と色っぽいというか何と叫ぶか。

それもそのはず、そのとき夜兎は上半身裸であった。

「え。その。なんで」

「夏だから暑いだよ。てか、エッチ！」

オレは夜兎にぶん殴られた。

「ぐはーーーーーーー！！！」

数メートル後方にぶつ飛び壁に激しく頭を打ち付けた。

「ライス先生！ライス先生！」

「うーん」

オレはそのまま気を失った。

そのとき、オレは夢の中で暗闇の中をさまよっていた。光がまるで見えない。

「夜兎！夜兎！どこにいるんだ！夜兎！」

オレは泣き叫んでいる。

でも何の返答もない。闇はますます闇になり、ついに足元が泥っぽくなってきて前に進めない。

「うーん。うーん。夜兎お。夜兎お」

オレはもうしんどくてしんどくて変な汗を流していた。

「夜兔お。夜兔お。あ」

オレは目が覚めた。

「あ。ライス先生。おはよう」

台所で夜兔がとんとんと包丁を叩いている。

「げ。朝かよ。めっちゃ寝てしまった」

「だいぶ疲れていたのねえ」

夜兔はテーブルを出してと言った。部屋の片隅に折りたたみ式のテーブルがあり、オレは広げて置いた。

夜兔はテーブルに次々と料理を乗せた。

その中に見たこともない料理。

「こ、これはまさか」

「ふふふ。そうよ。ピンチョンコロリンよ」

げげげげげ。ピンチョンコロリンというのは小説中で出した架空の料理である。旨いということだけはわかってはいるが、どんなかさっぱりわからない。作者でさえわからないのだ。

そのピンチョンコロリンが、今、目の前にある！現実に！

「夜兔、食べていい？」

「いいよ。あたしも食べよう」

いただきまーすと言って、ピンチョンコロリンを食らう。

「げげげげ。やっぱり旨い」

「そりゃそうでしょう。ライス先生が考えたんだから」

でも食べたの初めて。。。何か不思議な感覚。。。すっかり平らげなんだか元気になってきた。現金なものだ。

元気になってきたというより、今思い出した。ピンチョンコロリンで精力料理やんけ。

下半身が熱くなってきた。

「夜兔。今日、仕事はあるの」

「ん。今日は休みだけ」

「ふがふが。これはいかん。夜兔ごめん」
「きやつ」

オレは夜兔をベッドに押し倒した。

しばらくお待ちください。こんなケモノのような姿、ちびっこには見せられません。ごつつ恥ずかしい。

夜兔とオレは、そのあと、すっきりしたので、映画でも観に行くことにした。

二人して歩く。空が青い。夜兔の町は田舎なので空気がいい。咲いてる花を眺めうふふふという気分になる。大人なのでスキップはせんが。

しかし、悪にまみれたオレである。どうしても夜兔のぶりケツを見てしまう。めっちゃ揺れてる。まだやりたりないのかオレは。

「ナムアマミダブツ。ナムアマミダブツ」

「どうしたの。ライス先生」

「精神統一してるの。邪念が入り込み中だから」

「変なの」

ああ。夜兔のお尻さわりたい。さわりたい。さわりたいよう。

セクハラ・サブリーダーになりたいよう!!!

オレはこのままでは爆発してしまうと思ひ、そっとお尻に手を伸ばした。

「あつ」

夜兔が急に大声を出すのでオレはこけてしまった。

「いてててて。どうしたのよ」

前を見ると、ちびっこがボールを追いかけ道に飛び出し、その前からトラックがすごいスピードで走ってくる。この間、数メートル。しかも、運転手は酔っ払っており全然気づいていない。

ちびっこは恐怖のあまりボールを持ったまま立ち止まっている。

「これはいかんぞ。ライス先生！何とかしないと!」

「し、しかし、あと数秒ではねられるよ。あのちびっこ。数秒じゃどうにもならないよ」

「ライス先生の役立たず！」

「なにい。お前を慰めようとわざわざ来てやってるのに！」

「子供一人も救えないなんてチンカスよ！」

「なんだよ。独身女がえらそうな口聞くな！」

「なによ！パラサイトシングル！」

「ないい。本当のこと言いやがったなこの女許さねえ！」

「かかってこい！」

とか何とかやってるうちに、ちびっこははねられた。

空を舞いながら、ちびっこは叫ぶ。

「おねえちゃんたちのばかー！」

酔っ払い運転手はトラックを止め、アスファルトに叩きつけられたちびっこの血まみれの死体に駆け寄った。

「あわわわわ。えらいことだ。しかもわし今無保険運転。やばい。賠償金が半端ねえ！！！」

最悪のおっさんである。まあ懲役にでもなりたまえ。

しかし、あきらめないのがおっさんのいいところ（でもやなところ）おっさんは、ちびっこの死体をおんぶした。

連れていって、山とかに捨てるつもりなのか。

実はすでにちびっこの魂は体から遊離しており、ちびっこの半透明の魂が、夜兎とオレに語りかけた。

「おねえちゃん！おにいちゃん！何とかして！ぼく連れていかれちやう！」

「ひっ幽霊！」

「怖い！」

夜兎もオレもお笑い大好き人間だからこういうのめっちゃ苦手なのである。

「そんなこと言わないでよう。お願いだよっ」

ちびっこの魂は泣きそうである。

オレの塾講師魂に火がついた。

「よし。オレに任せておけ」

「ふん。メタボリック非正規労働者に何ができるって言うのよ」

「いちいちうるさいなあ。くそ社員め」

「さつさと社員になって独立しなさいよバカ！」

「うるさい！オレたちが低賃金に耐えてるから世の中が低価格で済んでるじゃないかアホ！」

「あたしたち社員が死ぬほど働いてるからよ！あんたら非正規は怠けてばかり！」

「なんだと！社員は命令するばつかで全然動かないじゃないかチンカス！」

「うるさい！非正規なんてアホだから命令しても全然動けないじゃないこのきんたま野郎！」

言い争いをしてるうちにトラックはどっかへ行ってしまった。ほんまに学習能力がねえなあこいつら。

ちびっこの魂はもうとほほほである。

「そんな悲しい顔しないで」

「映画観に行こう。夜兔。今日はオレ、アニメでもかまわんよ」

「そうね。あたしもアニメでもいいわ。ねえ。ちびっこ」

「ぼく、ちびっこって名前じゃないよ。たけしだい」

「じゃあ、たけし。あんた何か観たいアニメある？」

ちびっこの魂が腕を組んだ。

「ぼく、お尻くんが観たい！」

「げ」

夜兔は、あんな下品なアニメいやだと言い出した。

「バカ言うな！お尻くんはおもろいねんぞ。お尻の顔からうんこぶりぶり出すねんぞ！」

「それがいやなのよ！気持ち悪い！トラウマになるわ！」

「はーこれだからチンカスはいやなんだよ。ああ。そうですかい。

あなたはさわやかな気持ちのいいイシカワリョーくんの笑顔みたい

なアニメがいいんですかい？」

「そ、そうよ。何か文句ある？うんこアニメよりいいじゃない。うんこなんて有害よ！鬼畜よ！」

「バカタレ！世の中には不愉快なことがたくさんあるんだ！そういうのをガキに教えるのもアニメの仕事じゃないか！」

「チンカスカン！子供がそれ観て不良になったらどうする気よ！グリード義太夫みたいなスカトロマニアに成長したらどうするつもりよ！」

「あーグリード師匠の悪口言ったな、このうんこ野郎！」

「なによ！八工男！」

たけしは、単にぼくお尻くんに出てくるロリ華ちゃんて女の子が好きなだけなのになあと思っつて、この二人、まさしく、ジョン・アンド・ポールだなあと思っつた。

なぜたけしが若いのにビートルズを知ってるかといえば親がファンでよく聴いてるのだ。

しかし、もうたけしは親に会えない。

悲しいはずなのに、なんでこの話、こんなに悲壮感がない！！

とにかく喧嘩してたら日が暮れるということ、オレが夜鬼のおっぱいをもみ、夜鬼がオレのきんたまを蹴り上げるところで戦争はひとまず休戦した。朝鮮半島の状態すなわちたけしになった。

オレと夜鬼の間にちびっこの魂すなわちたけしをはさみ、三人で手をつないで歩きはじめる。まるで親子みたい。

まあ、ちびっこの魂なので、おっさんが小さい宇宙人と手をつないでるあの写真に近いかも。

あの写真は実に怖い。大人が見ればかわいいが子供が見るとめっちゃ怖い。

でもなんだかこの三人はうまく行きそうだ。

行くわけないだろ！！！！

おしまい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6421m/>

夜兔！無理して元気出さな！

2010年10月10日12時00分発行